

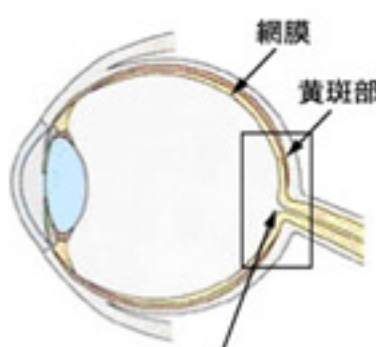
# OCT（光干渉断層計）検査



OCT（干渉断層計）検査とは、網膜（カメラで例えるとフィルムにあたる部分）そのなかでも黄斑部・視神経乳頭（図1）の断層画像を撮影する検査です。

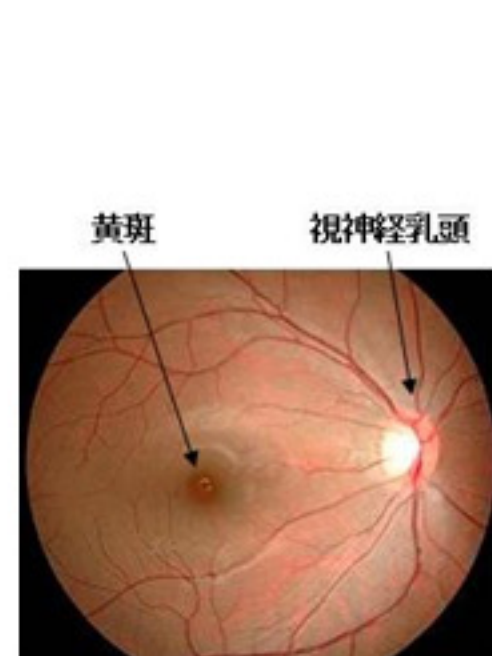
OCT 検査により、診察だけでは分かりにくい網膜の状態を明らかにし、網膜の病気に対する治療方針の決定や、治療効果の判定に役立てることができます。OCTを必要とする代表的な疾患は、黄斑円孔、黄斑前膜、糖尿病黄斑症、黄斑浮腫、加齢黄斑変性、網膜剥離、緑内障などです。

【図1】

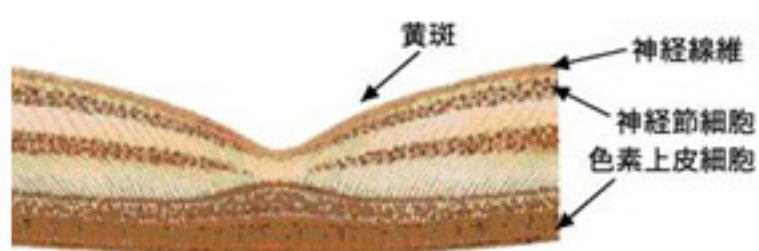


## 網膜について

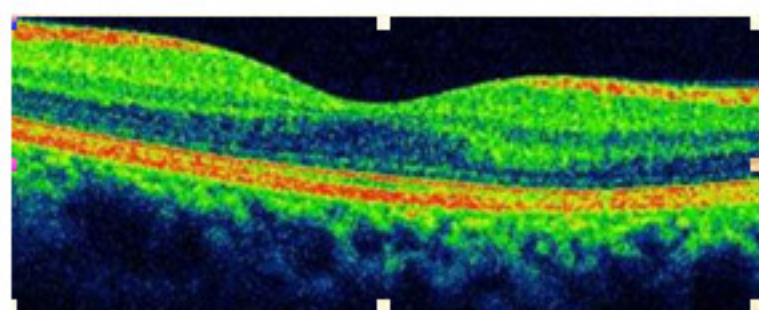
網膜は眼底写真で見ると平面（図2）に見えますが、実は10層（図3）に分かれていてそれぞれが大切な働きをし、黄斑は必ず凹んでいます。黄斑は網膜のほぼ中央にあり、他の部分の網膜に比べて視機能が格段に良く、ものを見るのに一番大事な部分です。正常の眼底と同じ部分をOCTで撮影すると図4の画像となり、比較的確認しやすいのが赤く発色している神経線維、神経節細胞と色素上皮細胞です。



【図2：正常眼底】



【図3：正常眼底断面】

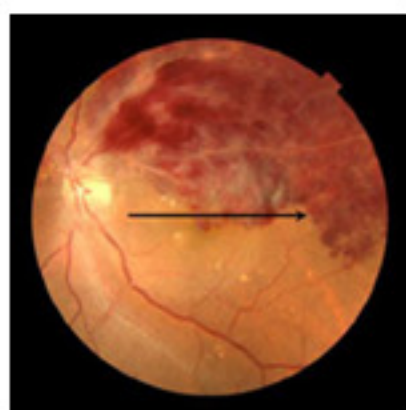


【図4：OCTによる断面】

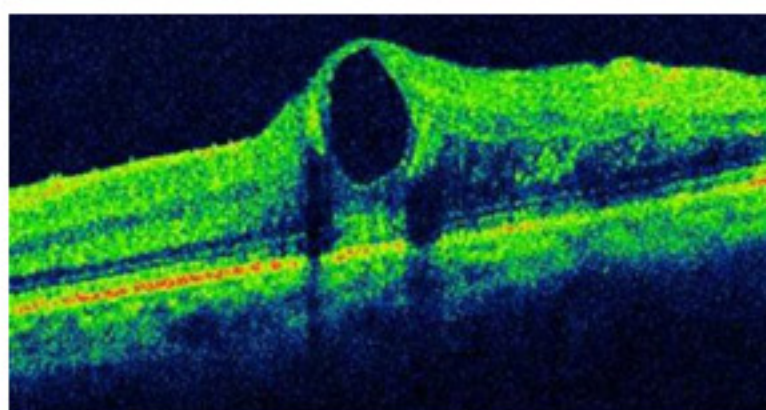
## 様々な疾患をOCT スキャンで示してみると

### ① 網膜静脈分枝閉塞症

網膜の静脈が閉塞し、拡張したのち出血します。高血圧を伴う中高年に発症しやすく、急激な視力低下を自覚する病気です。膨らんでいるところが網膜の腫れているところです。



【眼底写真】



【OCTによる断面】

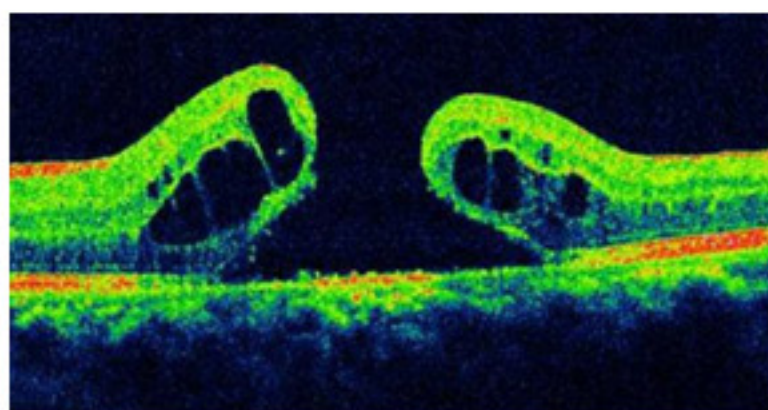
### ② 黄斑円孔

黄斑に穴が開く病気です。

原因は、外傷や他の病気に続発して起こる場合もありますが、原因が分からないことのほうが多いです。



【眼底写真】



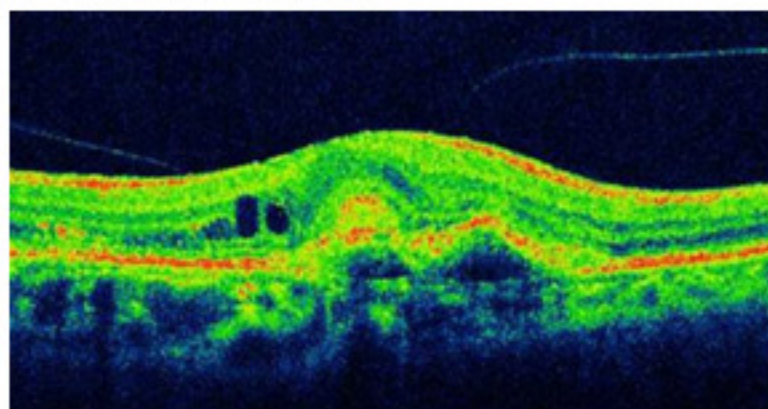
【OCTによる断面】

加齢黄斑変性により、黄斑の機能が障害されている病気です。

ものを見たときに中心が見えにくかったり歪んで見えたりします。



【眼底写真】



【OCTによる断面】